

事例  
A-⑦香川県・高松市牟礼庵治商工会  
庵治石の新ジャンルの商品開発への挑戦「AJI PROJECT」

(平成27年10月取材)

## 1. 面的支援の概要

## (1) 活動・支援のきっかけ

## ① 地域の状況

高松市牟礼庵治（むれあじ）商工会は、香川県高松市の牟礼町と庵治町の2つの町を所管する商工会である。この2町にまたがる八栗五剣山は花崗岩の層からなり、日本三大花崗岩の一つ「庵治石（あじいし）」の産地として古くから知られ、石材産業の集積地となっている。墓石や石灯籠などの石材加工業者も以前は5～600社あったが、中国からの安価な原石や墓石の輸入、国内ニーズの変化に押され、現在では300社程度に減少し、出荷量も最盛期の半分に落ち込んでいる。職人も高齢化しており、石材産業という地場産業の沈下が危惧されている。

こうした状況の中、生き残りをかけ、新ジャンルの商品開発が求められていた。

## ② 商工会による活動・支援のきっかけ

高松市牟礼庵治商工会では、平成21年度∞全国展開事業を活用して、新商品開発を後押しすることにした。それまでも、牟礼町で開催されるイベント「むれ源平石あかりロード」と連動して、石あかり商品を開発する動きはあったが、担当した平田指導員は、今回は“食”をテーマにすることにし、石粉を使った調理機器や石材加工品、地域の食材加工品などを「グルメ&ダイニングスタイルショー」に出展したところ、石臼のコーヒーミルがダイニンググッズ部門で大賞を受賞した。

右：八栗五剣山の庵治石の採掘場。庵治石産業は、採掘→石割→運搬→切削→研磨→加工→販売・出荷の工程を含む一大産業である。



庵治石の新商品ジャンル「AJI PROJECT」の商品群。「暮らしに寄り添う庵治石」をコンセプトに、石の質感を打出した日用品を開発している。庵治石と言えば、研磨を重ねてツヤを出すことが重要であったが、本PROJECTでは、石の素材感を活かすため、研磨をそれほど行わないなど、それまでの常識を覆した視点も話題を呼んでいる。HP (<http://www.aji-project.jp/>)。

## (2) 支援・活動概略と特徴

## ① 「AJI PROJECT」の始動

この成果に勢いを得て、商工会では22年度、23年度も石材商品の開発を自主財源で支援し、「ギフトショー」や「グルメ&ダイニングスタイルショー」に出展したが、先の石臼のコーヒーミルに続く商品も生まれず、活動は低迷期を迎えていた。そんな中、平成24年度にブランディングプロデューサーの河内氏の協力を仰いだことから、活動は大きな転機を迎える。

河内氏は、平成22年から庵治石の魅力を認めてくれていた人である。氏は「暮らしに寄り添う庵治石」をコンセプトに日用品の開発をプロデュースし、デザイナーを紹介、デザイナーと石工職人がワークショップ形式で商品を開発する「AJI PROJECT」が始まった。ワークショップ形式を採ったのは、職人が自らのアイデアで商品開発を進めるノウハウが身に付くからである。石の素材感と加工技術を融合させた「AJI PROJECT」は話題を呼び、NHKなどメディアでも大きく採り上げられるようになった。

商工会では以後も「AJI PROJECT」を継続し、平成26～27年度も∞全国展開事業を活用して、新たな商品の開発支援を行っている所である。

## ② 活動の特徴

本活動は、商工会が地場産業の振興を図るため業界の要望に応える形で始まったが、大きな特徴は、外部専門家（河内氏）の懐を借りたことと、ワークショップ形式による運営にある。これにより、庵治石の素材の魅力を活かす考え方の浸透と、発注元の仕様に頼らない、デザイナー&メーカーとしての石工職人スタイルが生まれた。

活動の流れ

墓石や灯籠など従来の庵治石加工品市場の低迷

新ジャンルの庵治石加工商品開発の必要性

“食”をテーマにした商品開発、「グルメ&ダイニングスタイルショー」出展  
⇒ 出品作が大賞を受賞

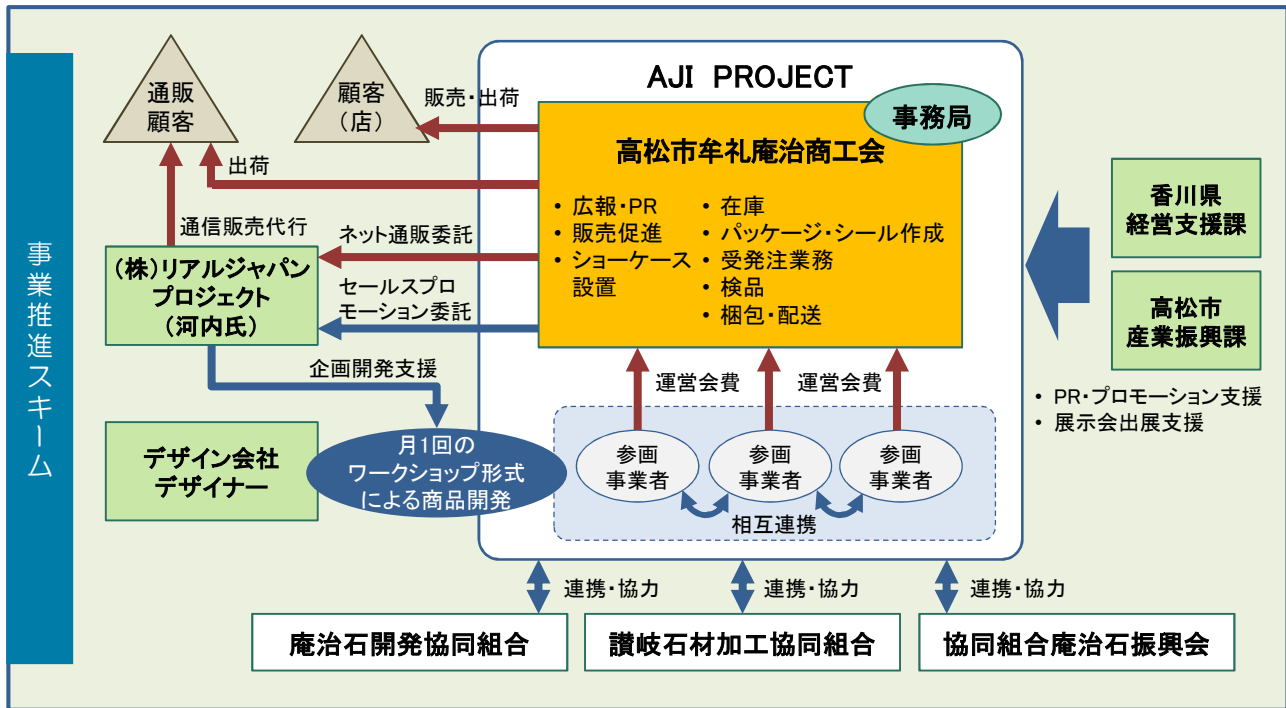
継続した商品開発、出展支援→(低迷)

外部プロデューサー招聘、デザイナーとのワークショップ形式による日用品の商品開発  
「AJI PROJECT」の開始

「AJI PROJECT」継続中

香川県・高松市牟礼庵治商工会  
庵治石の新ジャンルの商品開発への挑戦「AJI PROJECT」

2. 支援組織・地域内連携スキーム



(1) 「AJI PROJECT」のスキーム

「AJI PROJECT」は、大きくは、商品開発スキームと商品の販売スキームとで構成されているが、いずれも取り纏めは高松市牟礼庵治商工会が行っており、商工会が活動の中心となっている。

商品開発スキームにおいては、デザイナーとのワークショップ形式による商品開発が主となる。これにかかる経費は、参画事業者からの運営会費や施策の助成金などで賄っている。∞全国展開事業など施策を活用する時は、商工会が全体のコーディネーターとなって、県や市などの行政に、域内の3組合の理事などが参加する委員会を立ち上げ、その下に、「AJI PROJECT」と同じ仕組みのワーキング部会が置かれる。

(2) 商品流通のスキーム

「AJI PROJECT」は事業者の集まりであるため、販売組織を持たない。そこで現在は、商工会が事務局となって、商品の在庫管理から受発注業務まで代行して行っている。楽天のネット販売に関しては、協力企業(株)リアルジャパンプロジェクトが代行している。参画事業者は、事務局に運営会費を払う仕組みとなっている。

参画事業者は家族経営の小規模事業者が主であるため、個数の多い注文に対応できない場合もある。そんな時は、商工会がアレンジして他のメンバーが分担して完成・納品を目指す。このような共同受注形態を探ることが出来るのも本スキームならではの利点である。



高松市牟礼庵治商工会の漆原会長(左)と平田指導員。漆原会長は「讃岐石材加工協同組合」の理事長も務めており、組合員が個社やグループで製品開発を進めて業界を牽引して欲しいと願っている。



「AJI PROJECT」に参加している「落合重石材」の落合代表(右)と平田指導員。落合代表は、一級技能士でもあり、その石材加工の技術を活かして、「PLAT PLATE」(円内)などのシリーズを製造している。これ等の商品は北米にも輸出され、今では売上の2割を占めているという。



同じく「AJI PROJECT」参加者の「中山石材工房」の中山代表(左)。中山代表は、「平成21年グルメ&ダイニングスタイルショー」のダイニンググッズ部門で大賞を受賞した石臼のコーヒーマル(円内)の作者で、中をくりぬいた円筒形の加工が得意である。

香川県・高松市牟礼庵治商工会  
庵治石の新ジャンルの商品開発への挑戦「AJI PROJECT」

## 3 成果・地域への影響

## ① 新ジャンル「AJI PROJECT」の商品展開

「AJI PROJECT」の推進で、新ジャンルの商品展開が進み、平成25年からの累積で70アイテムの新品を生み出した。今までで合計1,500点を出荷しており、平成26年度は約400万円を売上げた。現在国内の取扱店は、インテリアショップや生活雑貨店など30店舗に及び、販路も広がってきている。北米からの引合いなどもあり、庵治石の魅力が海外にも伝わってきている。

また、ファッション誌やインテリア雑誌で特集されたり、平成26年6月に高松東急インでコンセプトルームが開設されたり、伊勢丹新宿店のリビング催事に出品したりと、デザイン性の高いインテリア商品としてのブランドが確立してきている。

## ② 「庵治石」の知名度の向上

当PROJECTのブランド力が強くなるにつれ、庵治石そのものの知名度も上がってきた。NHKの取材やJAL機内誌での特集により全国的に知名度がアップし、神社から従来品の受注に繋がった。〈本来の庵治石加工品の受注の増加〉という、地場産業振興の理想に繋がる流れと言える。

## ③ 事業者への好影響

従来の庵治石加工産業は、墓石のデザインなど発注者の仕様に沿って行うことが主で、自ら価値を創造して商品をデザインするような発想はなかった。それが、ワークショップでの啓発を受け、「水周りにはどんな商品が考えられるか？」など、事業者自ら考える姿勢が出てきた。また、メンバーの活動に影響を受け、平成27年度に1事業者が新たに参加するなど、周りの事業者にも好影響を与え始めている。



「AJI PROJECT」の商品は、丸亀町商店街にある高感度のライフスタイルショップ「まちのシューレ963」でも、デザイン性の高い生活グッズとして採り上げられている。



## 4 今後の計画

## ① 販売力の強化と販路開拓

平田指導員は、商品の販売力を強化する必要性を感じている。そのために、様々な施策を活用するつもりである。例えば県が募集する（一社）自治体国際化協会パリ事務所「クレア・パリ」によるテストマーケティング事業に応募する予定である。また、∞全国展開事業を活用して、アジア圏のバイヤーを招聘して行うJETRO主催の商談会や、2月の「ギフトショー」への出展を行い、海外や国内の販路を精力的に開拓する計画である。

## ② 事業運営組織の組成と自立促進

前述の通り、本活動は運営組織を持たず、商工会事業となっているため、展示会出展や事業展開で何かと制約も多い。平田指導員は、いずれは事業の自立化を促さねばならないと考えており、事業運営や直営店出店計画なども新組織で展開することが望ましいと思っている。小規模事業者のメンバーだけでは組織運営は難しいので、異業種出身のブランドマネージャーを迎えてLLPを組成するなど最適な形を模索しており、香川県中央会に相談中である。

## 5 地域経済活性化のポイント・商工会（指導員）の役割

## 【ポイント】

- ① 伝統的な地場産業に新たな商品展開を促し、日用品の新ジャンルのブランド「AJI PROJECT」を展開して、全国的な知名度を向上させつつある。
- ② 「研磨を抑え、石の素材感を活かす」という今までになかった発想により、庵治石の新たな魅力を引出し、そのコンセプトが高い評価を受けている。
- ③ 商品開発に当たっては、ワークショップ形式を採り、デザイナーからの啓発で、石工職人が自ら商品価値を創りだすように育成している。

## 【商工会（指導員）の役割】

- ① 施策を活用して新しい動きを起こし、地場産業の活性化を図る。
- ② 適切な外部専門家とのネットワークを構築し、プロデュースや商品開発のディレクションを委ねる。
- ③ 余裕のない小規模事業者に代わり、事業が軌道に乗るまでPROJECTを牽引する。